

初市風景

金沢問屋センター繊維同業会（山田治作会長）吉例の初売は1月7・8日行われた。

比較のお客様の出足は好調で、1年のスタートとしてはまずまずだったようである。

呉服に関しては以前のような顕著な流行がなくなり、商品の特徴をアピールしての催事中心型の販売が中心となりつつある。

婦人洋品をみてみると、春物は昨年並以上の物の動きがあったようで、カジュアルからエレガンスへの転換とパステルカラーや白等の明るい色が今年の流行だそうである。昨年からの好調なブリーツは今年も順調なようで、全体的にあかりが見えつつあるようである。



事務局だより

- 11月4日～26日 パソコン教室（応用コース）
- 11月5日 理事会
 - ①建設委員会より団地内一斉清掃と側溝泥あげ及び不燃物有料回収について
 - ②会館運営委員会より備品入れ換えについて
 - ③厚生委員会より行事結果と予定について
 - ④情報物流委員会よりパソコン教室について
 - ⑤変革実行委員会より組織改革案について
- 11月16日 団地内一斉清掃
- 11月17日 新入社員フォローアップ研修（第2回）



▲ 団地内一斉清掃



▲ 新入社員フォローアップ研修

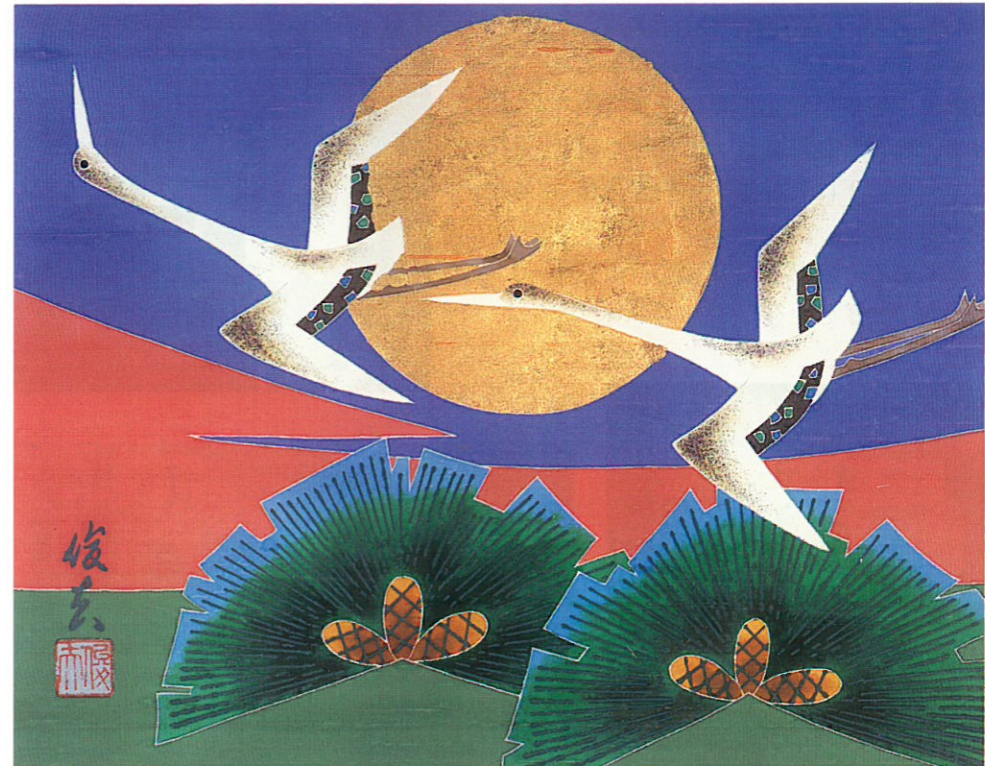
- 11月27日 労務委員会
 - ①合同企業説明会について

- 12月1日 財務金融委員会
 - ①運転資金転貸について
- 12月2日 理事会
 - ①財務金融委員会より運転資金転貸について
 - ②総務委員会より新年互礼会について
 - ③企画事業委員会より中堅幹部社員研修について
 - ④労務委員会より合同企業説明会について
 - ⑤厚生委員会より行事予定について
 - ⑥交通安全委員会より中部管区警察局長表彰受賞について
 - ⑦変革実行委員会より愛称「きまっし金沢」について
 - ⑧理事長より用地購入の件について
- ” 情報物流委員会 正副委員長会
 - ①ホームページ作成の今後の方法について
 - ②コンピュータ西暦2000年問題について
- 12月4日 広報委員会
 - ①次号について
- 12月14日 情報物流委員会
 - ①ホームページ作成の今後の事業計画について
 - ②(仮称)第6回情報化セミナーについて
- 12月21・22日 変革実行委員会
- 12月24日 企画・事業委員会 正副委員長会
 - ①営業部門強化セミナー（中堅幹部社員研修会）の詳細について

金沢問屋センターニュース

1999.1 No.73

協同組合 金沢問屋センター 金沢市問屋町2丁目61番地 ☎237-8585 ●発行者/宗廣満夫



加賀友禅作家 百貫華峰 作

年頭にあたって

(協)金沢問屋センター
理事長 宗廣 満夫

新年、明けましておめでとうございます。

昨年の我が国経済を振り返ってみますと、特別減税や4月の総合経済対策の実施にもかかわらず、消費者心理の冷え込み、金融システム不安、雇用不安の深刻化などにより、個人消費、住宅投資、設備投資など民間需要の総崩れに歯止めがかからず、厳しい局面が長期化、景気後退の度合いを深めてまいりました。政府が11月に打ち出した総額24兆円規模の緊急経済対策や、いずれも過去最大の積極型となる総額81兆8,601億円の平成11年度一般会計予算と、総額9兆3,000億円の減税を盛り込んだ平成11年度税制改正大綱の関連法案の成立により、冷え切った景気が刺激され、景気底打ちの実感できる日が一日も早く訪れますことを願わずにはおられません。

さて、当組合では、組合並びに組合員の活性化策について変革実行委員会が昨年1年間にわたり、積極的な活動を行った中から、2つのワーキンググループの成果があらわれてまいりました。組合全体を考える一つめは、組織改革ワーキンググループにより、各事業の意志決定と実行のスピードアップを図る組織づくりに取り組み、その結果、現在10ある常任委員会を4つに統合することにし、委員の募集により、新年度より新委員会が発足、共同事業が推進されていくスケジュールになっております。二つめは、CI推進ワーキンググループが団地のイメージアップを図るため、CIを導入し研究の結果、当組合の地域スローガンとして、“といやまち、創って魅せる目きき街”、愛称として、“きまっし金沢”を理事会で決定いたしました。

今後はこの新たなイメージとともに、県庁舎の移転に伴う駅西開発に合わせ、当地域も賑わいのある魅力ある地域にすべく、団地の再整備を研究してまいります。具体的には、歩道のカラー舗装、電線の地中化、団地内を南北に流れる河川、及び公園の整備等を行政当局に要望し、順次計画を進めてまいります。

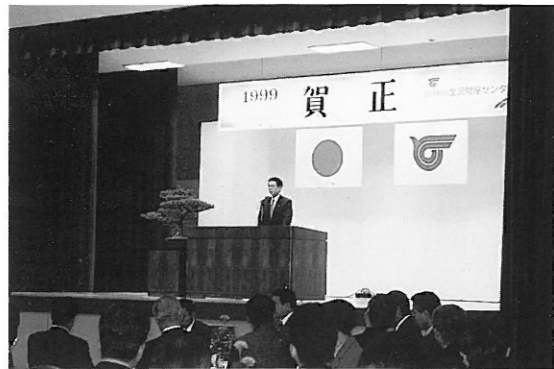
以上二点が組合全体の活性化であります。組合員個々の活性化につきましては、川上志向の商品開発、中間志向の物流・情報整備、川下志向の新業態開発の各ワーキンググループが、それぞれ希望する組合員をメンバーとして利益追求型事業を目指し現在、研究を行っております。激動の時代を乗り切るための各種方策に対し、組合員各位の絶大なるご協力をお願いし、併せて各企業の繁栄を祈念し、年頭のご挨拶と致します。

'99 新年互礼会

恒例、協同組合金沢問屋センターの新年互礼会は1月4日午後2時30分より、金沢流通会館パルスにおいて、来賓、組合員約230名が参加して行われた。

国歌斉唱に引き続き、宗廣理事長から挨拶があった。次いで山出市長、谷本県知事、奥田衆議院議員、宮商工会議所会頭、岩本参議院議員より祝辞を賜り、宇野県議会議員の発声の下に乾杯を行い祝宴に移った。

盛宴の中、山岸県商工労働部長の音頭で万歳三唱し、本年も盛況の内に終了した。



年 男 大いに語る



社員こそが宝物

大宗(株)
社長 大西 憲治

新年明けましておめでとうございます。皆様方にはお健やかに新春をお迎えになられましたことを心よりお慶び申し上げます。さて、昨年はずいぶん激動の1年でありました。日本経済は昭和恐慌以来最大の不況に直面して、GDP成長率が2年連続マイナス成長になることは現実になりました。そして私達の住む北陸も、昨年12月に日銀金沢支店が発表した北陸3県の短観は7期連続でマイナス幅が拡大とのこと。経済評論家の話によると、ある人は本年秋より少しずつ上向き、またある人はまだ2年間程は、と言われます。しかし私は、いかに最悪の経済状態になり、経済全体のパイが縮小しても、我が会社の売上は全体のパイの中では米粒程もなく、まだまわりには無限にあるように思われます。もちろんその考え方の元には、色々のプロセスがあることは当然です。私は社員という宝物を舟に乗せて、全員が一丸となって力を合わせ、不況の荒海へと漕ぎ出すのです。私が舵を取り、号令を掛け、全員で漕ぎ出すのです。私はいかにして宝物を増やし、いかに磨くかによって、不況の荒海を乗り越えるつもりです。世界が、また日本経済が

どうあれ、全社員一丸となってどんな時代にも生き残る体質を作る良いチャンスであると思ひ、地道に足元を見て踏み固めながら挑戦し続けようと思ひます。弊社は本年で満50周年を迎えることになりました。この50周年のくぎりに、私は全社員に1からの出直しを命じました。今までが順調にきたことによる慢心や甘えが一部に見えるように思うからです。私の会社は、社員の平均年齢が20歳台と若い会社なので、本年も若手社員の教育に力を入れるつもりです。私の信念である「商売は浪花節」、これは私自身の生き方でもあります。この浪花節を社員1人1人に教え込むつもりです。人と人との出会いを大切に、要領を使わず、相手を思いやり、一生懸命何事にも取り組むこと。人間関係こそ社員1人1人の財産であること、又それが本人の力になることを教えていきたいと思ひます。バブル経済崩壊後の後遺症が長く続く長期低迷期に会社が生き残るためには、会社思いの宝物をいかに多く育てるかが一番大切な私の仕事と思ひ、飛躍の年となるよう本年1年間頑張るつもりです。



21世紀を前に

(株) 丸一商店
部長 別所 栄治

新年明けましておめでとうございます。今、多くの人々が時代の先行き不透明を前にして、元気を失っているように思ひます。また、これまでの仕事のやり方、行き方に自信を失っているようです。かつて、ノストラダムスが予言した人類破局の年とされる1999年。確かに日本と世界を見回しても長引く経済不況や続発する毒物事件、高まる軍事緊張、テロなど世界、日本は暗い。だが、私は予言を信じる必要はないと思ひます。しかし、昨年、経済界を見れば、バブルがはじけ

景気が低迷しています。これまで誰もがつぶれないと思っていた銀行や生命保険会社、大手証券会社等ががつぎつぎと倒産し、バブル崩壊の動きもまだ序の口に過ぎないとも言われています。また、金融業界をはじめ、経済界を引っ張ってきた一流企業でトップ陣の不祥事が続いています。株価も地価も低迷したまま、一向に上向く気配がありません。政治の世界も同じです。混乱錯綜としか言いようのない政界は相変わらずリーダーシップ不足で、一向に行革もはかどりません。真の船長がいないと

言っている、私たち日本丸はこれからどこに行くのか、見当がつかないのではないのでしょうか。

社会を見ても、信じられないような事件が毎日毎日起こり、いまだ解決されていないものも、たくさんあります。倫理観やモラルのない風潮が広まっているように退廃すら感じる社会の様相です。

今、問屋センターを取り巻く環境も同様に、とても厳しい年ではないかと思えます。私は景気・不景気というものは人間が作り上げているもので、人為現象であり自然現象ではないと思うからです。ですから、好・不況というものは本来あり得ないものではないのでしょうか。商売をしている身にとって不景気にはまた不景気に対処する道が必ずあると思えます。世間が不景気だから自分の会社が不景気になるのも仕方がないとあきらめたり、あるいは困ったことだと右往左往すれば会社はその予想通りになると思えます。だからこんな時こそ、社長や社員一人一



初春を迎えて

(株) 紙谷物産
副社長 紙谷佳伸

新年明けましておめでとうございます。

21世紀を目前に控え経済の先行き不透明感はいっそうに見通しのたたないまま年明けしました。昨年も深刻な消費不況で、有効求人倍率の悪化、失業率の悪化、戦後最多の企業倒産件数といったように今更ながらも暗い話題の枚挙にいとまがありません。それに伴い、ここ数年不況感が強まるにつれ光陰矢の如し「時間」だけが経過し、物事が好転しないまま空回り現象が起きてはいないのでしょうか。以前に比べ一つの課題に費やした時間とその結果である効率、効果のバランスが崩れ、一つ一つの実態に対してどう好転し、どう進展したのかが目標に対し曖昧模糊に終わっているように思えます。勿論起きている事実もドラスティックで衝撃的な先行きが読めない複雑な内容のものが増えてきていることも確かですが、時は金なり、時間も金銭と同じようにコスト意識を持ち大切に捕らえながら一つ一つの実態に対し前向きに取り組む必要性を感じます。

企業経営においても投下資本に対しての利益率の重要性はいうまでもありませんが、投下資本にスピードという概念が今まで以上に大切になってくると思えます。土地、不動産評価の下落、商品単価の下落、金利の下落等、デフレ経済下で今までと同じ期間で同じ結果を出すことは年々難しくなるわけで、回転率を上げるか利益率を上げるか二者択一ですが今までと同じ結果を出そうとすると時間が今までより余分にかかったりと、より経営環境も厳しくなり益々複雑化してまいります。

人の実力がものを言うのだと考えて、更に商売に励むならそこには発展、繁栄する道が必ずあるのではないのでしょうか。困難な時こそ人間は力を合わせ成長する。物が無い時代には助け合いを必要とし逆に他人を思いやる心も養われるという不況や激動の時代より平穏な日々を積み重ねることの方がいかに大切かがよくわかるような気がします。

全国の卸町、問屋センターをじかにこの目で見ると、改めて金沢問屋センターがすべての面でいかに素晴らしいかがよくわかります。協同組合の特性を生かし、組合員一人一人が21世紀に向かって品性の向上につとめ、人を愛し自己の職務を通して企業や社会の改善に勇気を持って行動したいものだと思います。

これからしばらく再誕生の産みの苦しみに大変なこともあるでしょう。希望つき目標をもって、素晴らしい未来を作っていくようではありませんか。

こういう時だからこそ戦略ドメインの必要性を感じます。戦略ドメインとは誰に(who)、何を(what)、どのように(how)といった戦略ターゲットを明確にし生き残りのため企業としてのアイデンティティを構築させることです。投資に対する効果、効率を上げていくためには経営資源の投下に際して、競争市場内のどこに、どのように自社の存立基盤を築くかを明確にしなければなりません。効果的な競争対抗策を練り競合他社との相対的優位性が今後もっと大切になってくるのではないのでしょうか。バブル期の成功企業の多くは、この戦略ドメインの明確化によって成熟した市場下でも競争優位を保ちながら安定した発展を遂げているところが多いようです。

孫子の言葉に「小敵の堅は大敵のとりこなり」とあります。こちらが小であり弱であれば、大きさや「力」で対抗せず、「策」で戦えと言っています。小には小の強さがありそれを見つけ出すことが大切だとも言っています。まさに戦略ドメインの必要性を説いているようにも感じとれます。昨今の厳しい状況下では費やした時間とその結果である効果がスピードでバランスよく回転し、自社の強み、弱みを絶えず考えながら足元をしっかりと見つめ、一つ一つを大切に進めていくことが最重要課題であるのではないのでしょうか。

私も1963年生まれで今年で36歳になります。「まだまだ36歳」でもあり「もう36歳」でもあります。皆様方の御指導のもと虚心担懐に頑張っていく所存であります。どうぞ宜しくお願い致します。

平成11年の経済見通し



金沢信用金庫問屋町支店
支店長 大海 栄作

謹んで新年のご祝詞を申し上げますと共に、日頃のご愛顧に対し厚くお礼申し上げます。

さて昨年を顧みますと、わが国にとりましては、政治、経済、社会等あらゆる分野において世紀末現象ともいえる様々な問題が噴出し、まさに混迷を極めた1年であったといえようかと存じます。

特に、経済におきましては、戦後最悪とも言える不況にいたっており、日本経済の活発さを測る物差しである国内総生産(GDP)成長率は98年7~9月期時点まで丸1年間縮み続けました。また、設備投資は例のない鋭角的な落込みを続けています。

反面昨年の秋口から景気の底入れを示唆する指標が出てきつつあり、確かに公共投資の本格化、在庫調整の進展等は、統計上も確認できます。これらを基に一部には景気底入れ論が台頭しつつありますが、エコノミストの多くは、このような見方は時期尚早であるという考え方をしており、景気悲観論がまだ蔓延しております。昨年12月に実施した当庫のお取引先のアンケート調査においても「景況感」は一段と悪化となっております。

さて、このような背景の中、平成11年の日本経済は昨年と比べてどうなるのか、荒っぽく述べさせていただきます。「昨年よりは良い。しかし本格的な回復には至らない」と思います。昨年で2年連続のマイナス成長となっており、今年も政府見通しの0.5%成長の達成は難しく、GDPは回復せず3年連続のマイナスとなる可能性が強いと思います。その理由として一番大きいことは、ストック調整の本格化です。設備投資は昨年2ケタの落込みとなり、今年も2ケタのマイナスと見ます。景気対策と今年度の当初予算で、約40兆円の公共投資は10%近い伸びが期待できますが、設備投資はその2倍の80兆円規模です。こちらが大きく落ちる中で公共投資に景気を反転させる力はないと思います。またもう一つの大きな懸念材料は、米国経済の好調を支えた株高に終止符が打たれ米国経済が今踊り場を迎えている(上方、下方のいずれに向かうかはっきりせず、一時的に小康状態)ことです。世界に巨大消費市場を提供し続けてきたアメリカ経済の停滞は、金融危機だけでなく実態経済も大きく傷んだ日本やアジア、ロシア、中南米に深刻なダメージを及ぼすことでしょう。

暗い話ばかりさせて頂きましたが、しかし景気、経済は何があるか分かりません。思わぬ予想以上のフォローの風が吹くかもしれません。明るい見方として、元旦の日経新聞に記載されておりました「景気楽観のシナリオ」を紹介させていただきます。

■11年度 日本経済のシナリオ

| | 標準予測 | 世界経済回復 | 消費者心理好転 | 貸し渋り解消 | 最楽観シナリオ |
|--------|--------|--------|---------|--------|---------|
| 実質GDP | △ 0.5 | 0.2 | 0.8 | 0.9 | 2.7 |
| 実質個人消費 | 0.8 | 1.2 | 3.4 | 1.2 | 3.7 |
| 実質住宅投資 | △ 0.8 | △ 0.4 | 0.0 | 0.0 | 1.1 |
| 実質設備投資 | △ 14.3 | △ 12.9 | △ 13.6 | △ 4.5 | △ 2.5 |
| 実質輸出 | △ 0.8 | 2.9 | △ 1.4 | △ 1.3 | 1.8 |
| 国内卸売物価 | △ 2.4 | △ 2.2 | △ 2.2 | △ 2.2 | △ 1.9 |
| 企業収益 | △ 5.1 | 7.5 | 2.6 | 9.2 | 29.1 |

※ NEEDSの予測より 計数は前年比%

1. 貸し渋り解消

貸し渋りが解消し、企業経営者のマインドが好転し、設備投資が予測より10ポイント程度上昇したならば、GDP 0.9%増

2. 消費者心理の好転

消費者心理が明るくなり、平均消費性向が2ポイント上昇したならば、個人消費は急回復、3.4%増となり、GDP 0.8%増

3. 世界経済の回復

実質経済成長率が予測より米国2ポイント、アジア5ポイント上昇するならば、日本の輸出が予測より3.7ポイント上昇、企業収益も急回復、GDP 0.2%増

4. 以上のシナリオが同時に実現

GDP 2.7%増

※ 日経新聞には「悲観シナリオ」も記載されておりましたが、あえて「楽観シナリオ」だけを紹介させて頂きました。

悲観的な予測が多い中、上記シナリオが実現する可能性もあるわけです。現実を直視しない、また努力も全くない「果報は寝て待て」の楽観も困りますが、悲観論により企業の成長マインドが落ちることこそが一番問題であります。

不況は座して過ぎ去るものではなく克服には一歩踏み出す勇気を持った企業の挑戦が必要であると思えます。

厳しい長びく不況の中、組合員の皆様におかれましては、発想の転換も含め中長期的な計画に基づく経営戦略を講じて早急に行動することが必要であると思えます。我々金融機関も、その中で少しでもお役に立てるよう精一杯努力してまいります所存であります。年頭にあたり皆様方の益々のご繁栄とご健康を心よりお祈り申し上げます。